

教えてはちくん!木づかい通信 Vol.13



大館市観光キャラクター

「はちくん」

※チェンソーマンVer.

テーマ

実はロマンティックではない
アカシアの木

～Acacia (アカシア) が止まらない～

WOOD CHANGE! TOPICS:

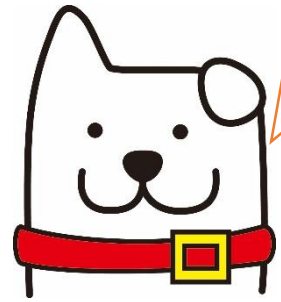
「みなみあいづ森と木の情報・活動ステーション きとね(福島県南会津町)」

令和4年4月
産業部林政課

本資料は林知行 著「目からウロコの木のはなし(技報堂出版、2020年3月)」を引用し、作成しています。

テーマ「実はロマンティックではないアカシアの木」

教えてはちくん!



アカシア（正確にはニセアカシアまたはハリエンジュ）は乾燥地や砂地などの荒廃した土地を緑化できる樹種として、明治期に我が国に導入され、鉾山町である小坂町では数多く植栽され、現在も毎年アカシア祭が開催されています。

このような緑化木、肥料木としての利用以外にも、アカシアには良質なはちみつが採れる蜜源植物である、という利点がある一方で、その繁殖力の強さゆえに、クロマツ林等に侵入し、生態系を変えてしまう、生物多様性を低下させる、希少な植物の生育を妨害するといった外来種に特有な問題があることから、環境省の「要注意外来生物リスト」に指定されています。

「目からウロコの木のはなし、P60～62」



もう少し詳しく

なぜ荒廃地でも育つの？

A. マメ科の植物だから

- ・マメ科の植物の根には「根粒」というこぶ状の組織があり、そこに「根粒菌」というバクテリアが住みついている。
- ・この根粒菌が空気中の窒素(N)を取り入れて、植物の生育に必要な養分となるアンモニアに変え、それを直接マメ科の植物に提供する。
- ・根粒菌も植物から生きるための栄養をもらっている。



植物の成長には窒素(N)、リン(P)、カリ(K)といった無機の栄養素が必要だが、マメ科の植物は根粒菌の助けがあるため、窒素が少ないやせた土地でも生育できる



アカシアの花とクロマツ砂防林への大侵入
(写真:林知行氏提供)

⇒伐っても萌芽が出てくる、あるいは強烈なトゲがあるといった駆除・管理の難しさが、ロマンティックではないという説に拍車をかけているかもしれません(異論もあり)。一方、アカシアから採れるはちみつを使った「アカシアドーナツ」も有名ですし、最近では天然蜜蠟ワックス(次ページ参照)も開発されています。うまく活用できれば本当に“ロマンティック”な資源になるかも…!?

「ひまわり蜜蝋ワックス」

秋田県産の自然素材「釈迦内ひまわり油」と「小坂アカシア蜜蝋」のみで作った
秋田スギに最適な蜜蝋ワックス

160g 2,750円(税込)



320g 4,950円(税込)



価格が変動する場合がありますのでお求めの際は、製造販売元にお問い合わせください。



写真提供：株式会社沓澤製材所

◀「釈迦内ひまわり油」

販売者：釈迦内サンフラワープロジェクト実行委員会

大館市の「釈迦内サンフラワープロジェクト」で
釈迦内小学校の児童の皆さんが作ったひまわり油

秋田県釈迦内サンフラワープロジェクト

釈迦内サンフラワープロジェクト実行委員会は、「こどもたちの未来を創りあげていく」というコンセプトの下、地域で大切にされてきた「向陽」＝ひまわりを活用し、耕作放棄地でのひまわりの種まき、収穫、ひまわり油の製造から販売までの6次産業化に取り組んでいます。

「小坂アカシア蜜蠟」▶

販売者：(有)杉本養蜂場 杉本はちみつ店

国内最大級のニセアカシアの群生地・小坂町
で生まれたアカシアはちみつ蜜蠟

秋田県小坂町のアカシアはちみつ蜜蠟

明治時代に小坂鉾山の煙害によって失われた緑は、明治42年から取り組んだニセアカシアの植林でよみがえり、今では国内最大の群生地となっています。小坂町で生まれた最高級のアカシア蜂蜜は、濃厚な甘さとスッキリした味わいが人気で「はちみつの女王」とも言われ、高級品として扱われています。



写真提供：株式会社沓澤製材所



写真提供：株式会社沓澤製材所

↑ワックス塗布前↑

↑ワックス塗布後↑

写真提供：株式会社沓澤製材所

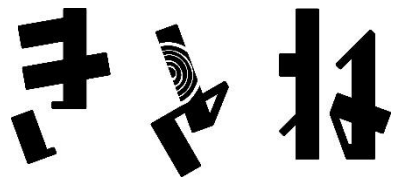


↑ワックス塗布前↑

↑ワックス塗布後↑



みなみあいづ森と木の情報・活動ステーション



福島県南会津郡
南会津町田島字宮本東33番地1

参考：[広報みなみあいづ2022年1月号](#)

福島県南会津町と大館市は、平成29年度に林野庁の「林業成長産業化地域」に選定され、東北地方の林業成長産業化を共に目指すため、地域間での交流を深めています。同町のプロジェクトとして、建設を進めてきた木造公共施設「きとね」が4月9日よりオープンしました。(訪問日:4/12)

外観



外観



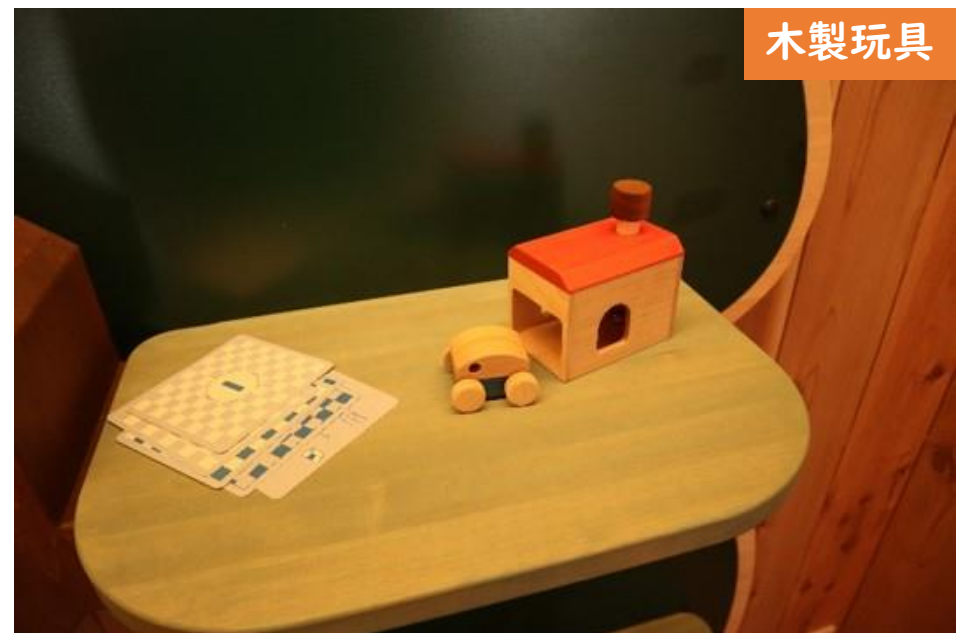
外観



外観



WOOD CHANGE! TOPICS



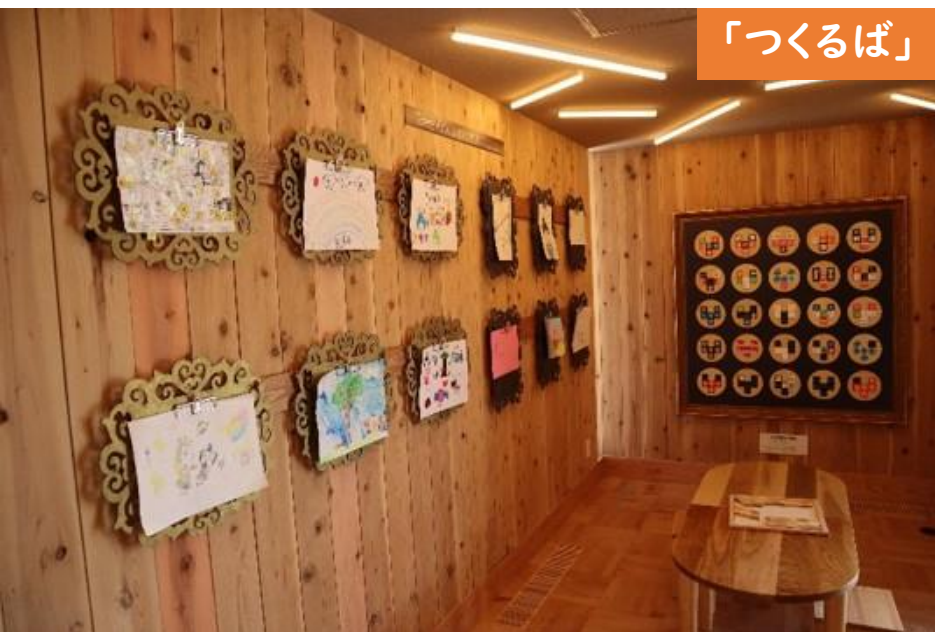
WOOD CHANGE! TOPICS



木製玩具



木製玩具



「つくるば」



情報コーナー

WOOD CHANGE! TOPICS

シェアスペース (テーブル)



南会津町産材：ナラ使用



シェアスペース (ストーブ)



きとねホール



展示・物販スペース（木製玩具）



展示・物販スペース（木製玩具）



展示・物販スペース（アロマオイル）



展示・物販スペース（アロマオイル）



南会津町産材:スギ使用



ワークスペース



WC



WC



WC



WC



サロンスペース



サロンスペース (Wood Wall Art)

愛称「きとね」について 「きとね」にはさまざまな意味が込められています

①言葉遊び

「木とね・・・」と聞いたとき、何か続きがあるかのように感じるように、歴史や文化、田舎の原風景、清らかな水、人の温かさ…など、南会津町のモノ・コト・ヒトが、施設でつながっていくイメージです。

②暖かく親しみやすい言葉

「ね」という言葉一つで、優しく語りかけられているような、友人と楽しく会話をしているような感覚を覚えるように、常に親しい存在が迎えてくれるような温かみのあるイメージです。

③「ki」+「tone」

木のトーン（音、肌触り、色調、香りなど）を体感し、木と過ごす時間を大切にしたい願いを込めています。

これらのイメージを基に、森林・林産業振興の拠点施設として、大きく「根」を張る施設を目指しています

南会津町メッセージ

南会津町農林課
楠 祐馬さん

南会津町農林課
橘 昭さん

南会津町農林課
本間 伸一郎さん



本町では「カラマツ材・広葉樹材等のブランド化による地域・林業の活性化を目指す」を目標コンセプトに、令和3年度までの5年間、様々な事業に取り組んできました。この「きとね」はその集大成として建設を進めたもので、構造材の調達から建物の施工、配置する家具類の製作までオール南会津で仕上げました。

今後は、「きとね」を森林・林業・木材産業の核となる施設と位置付け、関係団体等と協力して南会津の林業成長産業化をさらに推進していきます。さらに、大館市をはじめ東北地方の林業成長産業化地域の皆様とは引き続き情報交換等の交流を続け、東北地方全体の林業を軸とした産業の活性化を目指し頑張っていきます！